

抗真菌藥使用量統計

<本データをご利用される上での注意事項>

○本データは、診療、調剤時に発生する診療報酬明細書、調剤報酬明細書をもとに集計しています。医療費公費負担制度受給者のデータなどが含まれないことがあり、正確な使用量を示すものではありません。データの取得時期により、これまでの公表値と変更がある場合がございます

○表記されている数値は、人口と薬剤ごとのDefined Daily Dose (DDD) で調整した『標準化使用量』を表しており、これをDID (DDDs/1,000 inhabitants/day) と呼びます。(参考：https://www.whocc.no/atc_ddd_index/)。

DDDは2022年1月時点のものを使用しております。

○人口は、総務省統計局の人口推計 (<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/>) を利用しています。

○WHOのATCコードJ01に該当する薬剤を抗菌薬と定義しています。

○その他、抗菌薬集計に関する用語に関しましては、こちらをご参照ください。(https://amrcrc.jihs.go.jp/surveillance/jsac_glossary.pdf)

○注意事項

- ・ ECDCのサーベイランスを参考に、WHOのATC分類でJ02、D01BA02、D01BA03に分類されている薬剤を抗真菌薬として集計しています。
- ・ 本データは内服と注射薬のみ集計されており、すべての抗真菌薬(外用薬など)を含むものではありません。

○欧州のデータについては、European Surveillance of Antimicrobial Consumption Network (ESAC-Net)に記載の情報を使用しています。(<https://www.ecdc.europa.eu/en/about-us/partnerships-and-networks/disease-and-laboratory-networks/esac-net>)

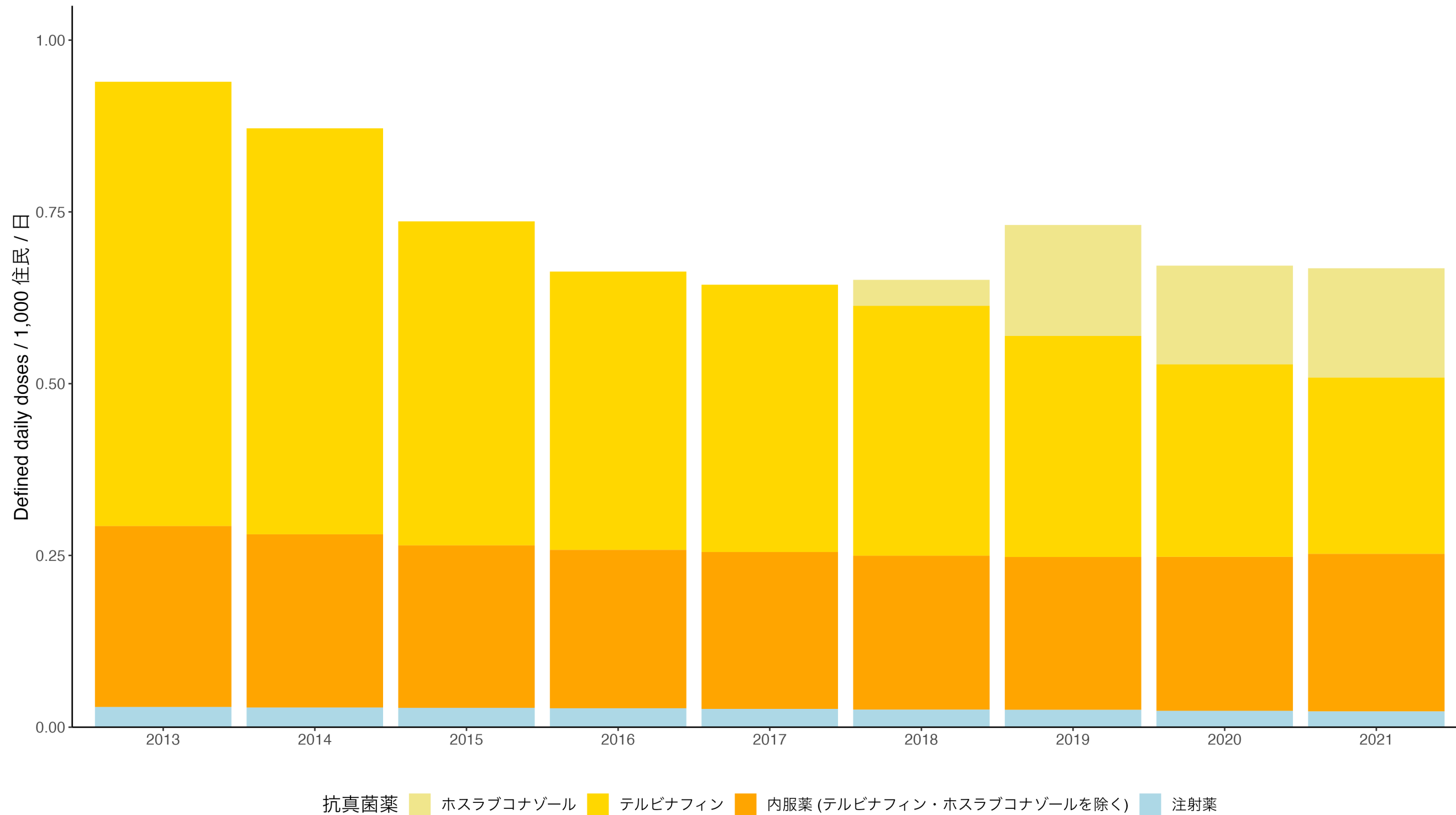
- ・ community sectorおよびhospital sectorの合算としているため、両データの掲載がある国のみを対象としています。
- ・ グリセオフルビンは日本では現在流通はなく、ホスラブコナゾールは日本のみ流通している抗真菌薬です。

(※) 本データ解析は、以下の研究に基づき実施されたものである。

- ・ **令和6年度新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業（厚生労働科学研究費補助金）**

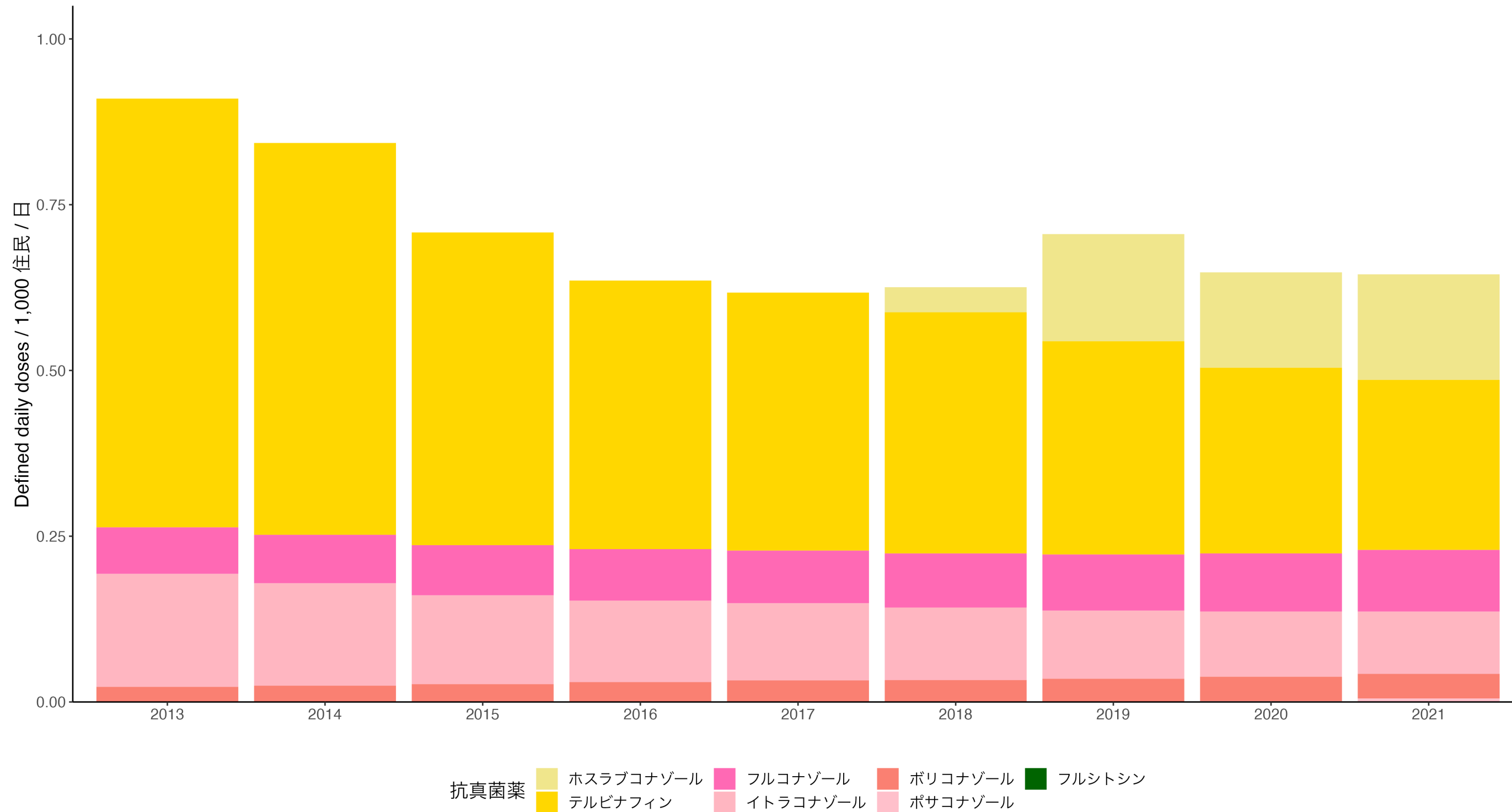
薬剤耐性（AMR）アクションプラン2023-2027年の実行における課題解決のための研究（研究代表者：大曲貴夫）

投与経路別 全抗真菌薬使用量推移 2013-2021



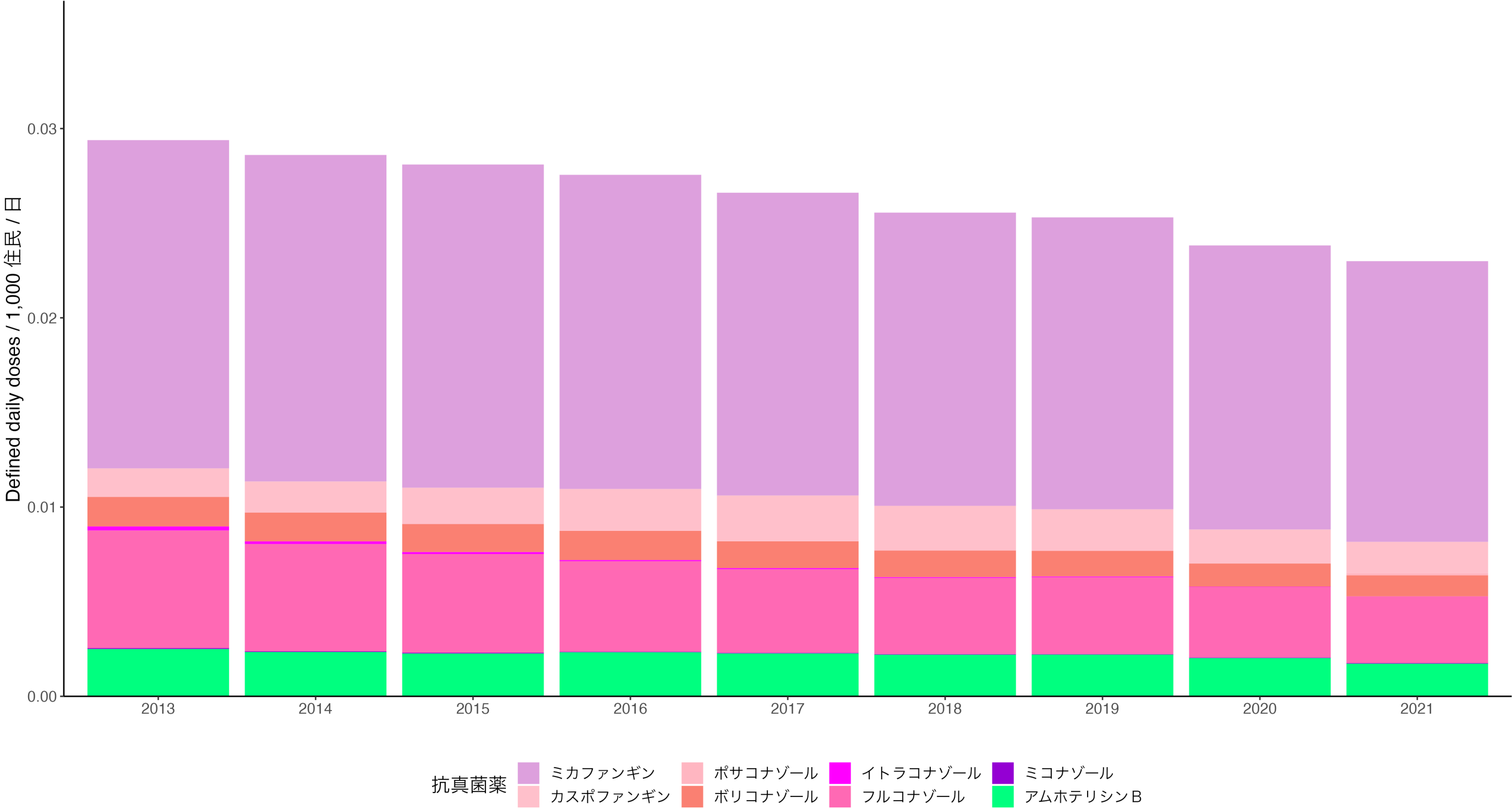
内服

投与経路別 全抗真菌薬 (内服薬) 使用量推移 2013-2021

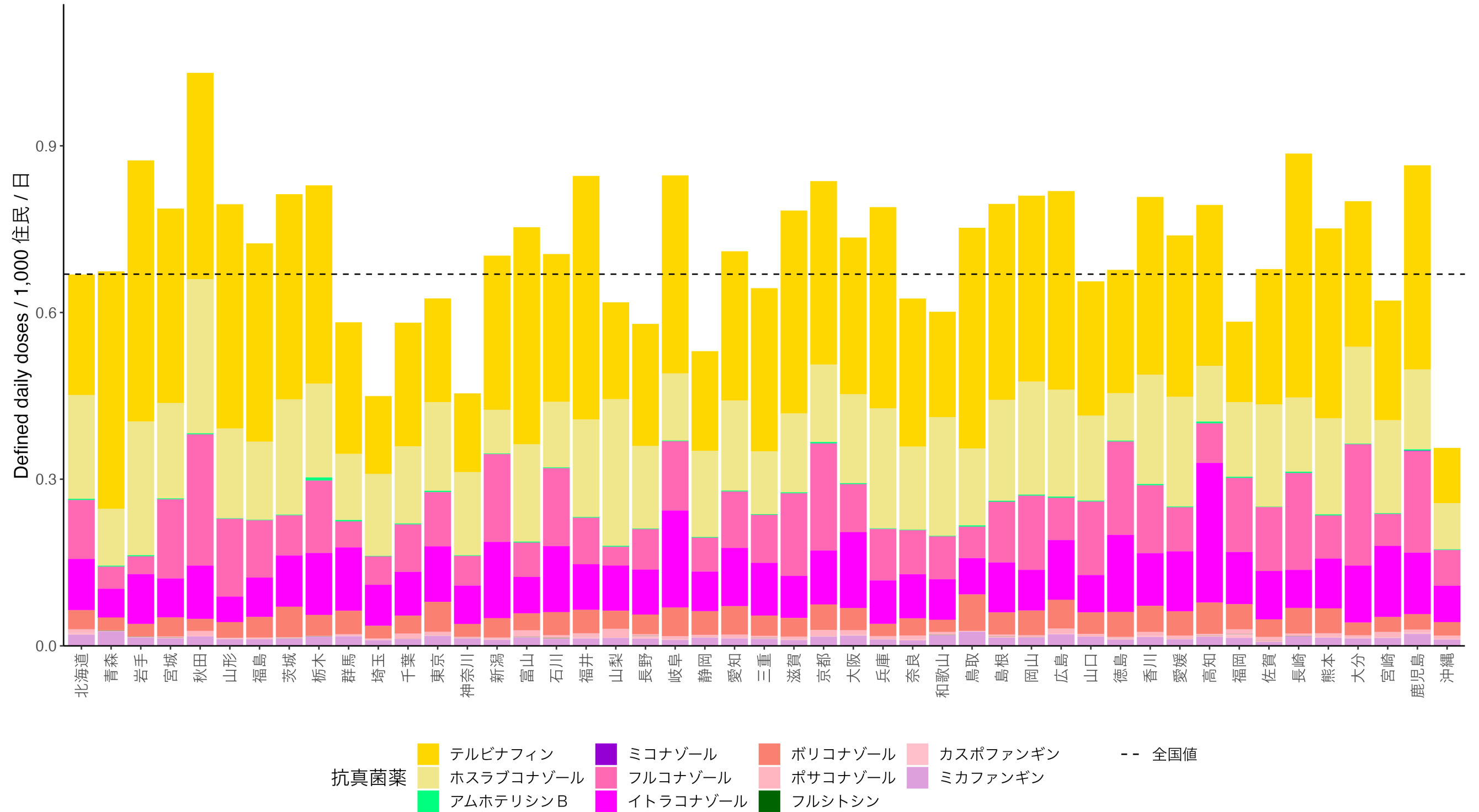


注射

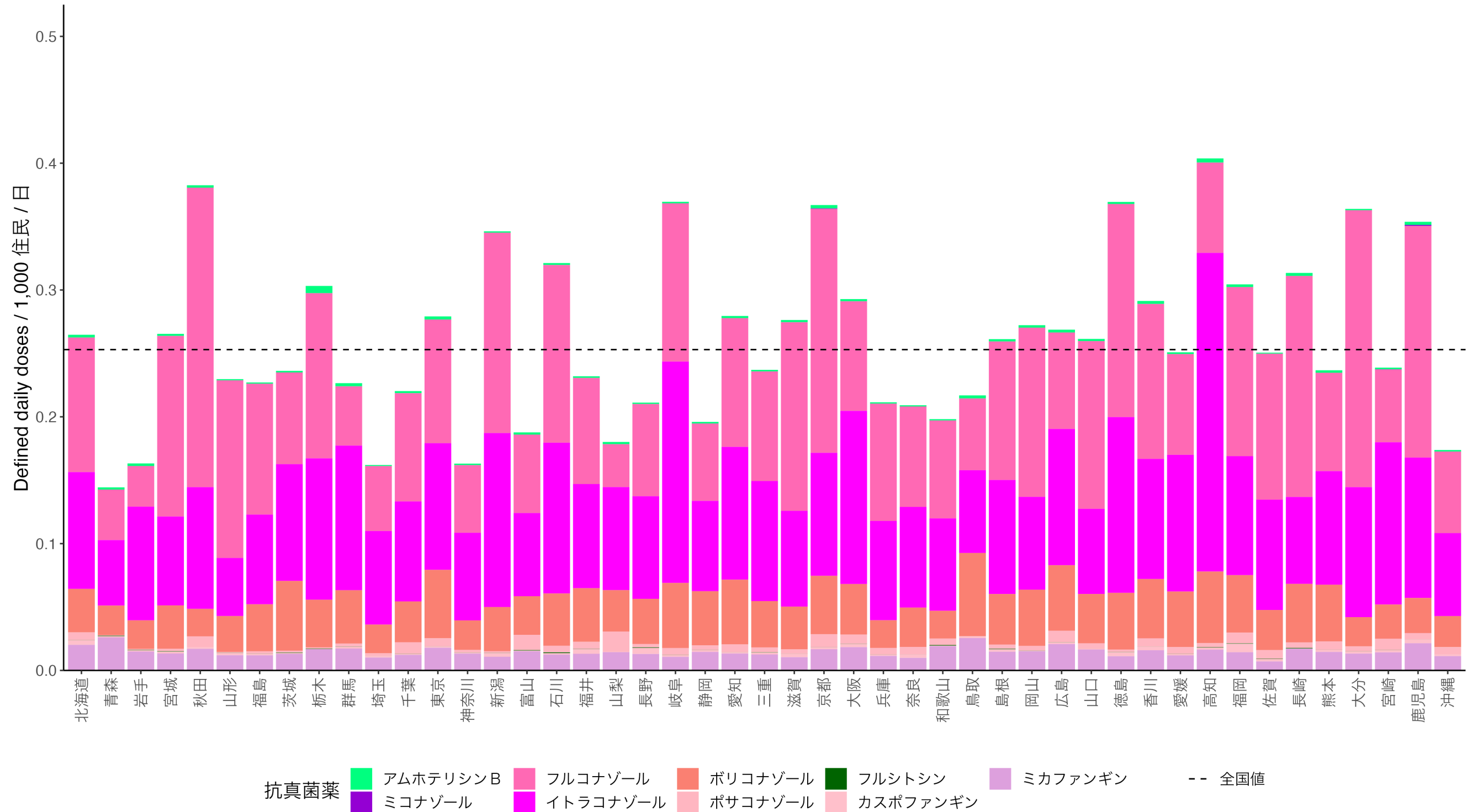
投与経路別 全抗真菌薬 (注射薬) 使用量推移 2013-2021



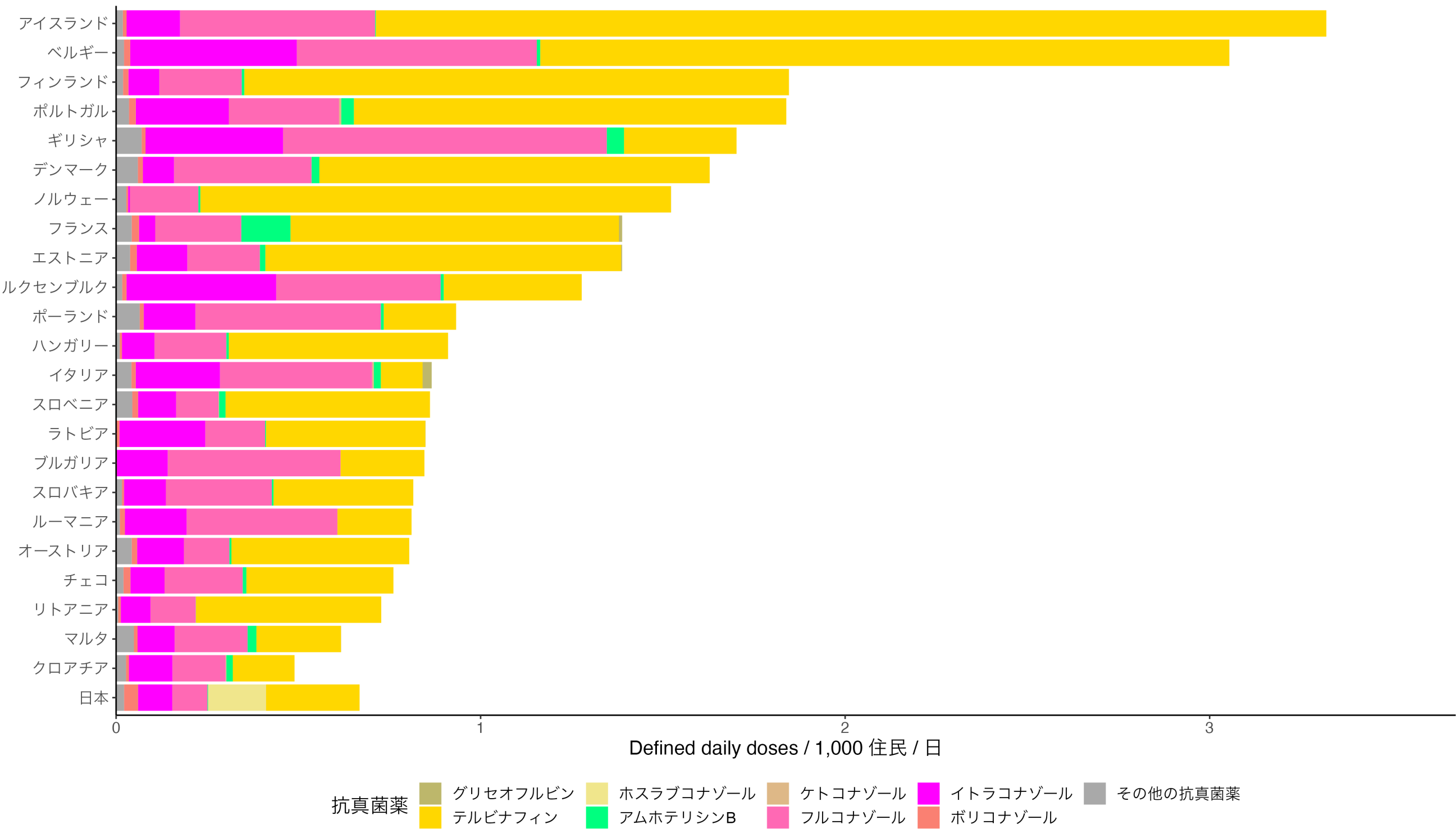
都道府県別 2021年 抗真菌薬種類による集計



都道府県別 2021年 抗真菌薬種類による集計 -抗白癬菌薬を除く-



欧州および日本における抗真菌薬使用量の国際比較 (2021年)



欧州および日本における抗真菌薬使用量の国際比較 -抗白癬菌薬を除く- (2021年)

